2018 年 9 月 30 日

博報財団 第 12 回「国際日本研究フェローシップ」成果報告書

Ⅰ. 研究成果概要

氏名 在住国名	HELLYER Robert Ingels （ヘリヤー ロバート インガルズ） アメリカ
所属・役職	Wake Forest University 准教授
招聘回（招聘研究間）	第 12 回 （ 2018 年 4 月 1 日～2018 年 8 月 26 日）
受入機関	国際日本文化研究センター
招聘研究テーマ	1850 年代～1950 年代、日本茶輸出のグローバル・ヒストリー －生産から消費までの担い手関する社会経済史的考察－
研究目的	大正時代、昭和初期の日本国内茶の消費について

研究成果概要

1. どのように研究を進めたか（具体的に）

茶の湯や煎茶道についての研究は多く存在するもののので、江戸時代以降の日本における日常的な茶の消費文化について研究を行った。「日本人の間で煎茶はいつどのようにしてもっとも一般的に飲まれる茶となったのか？」を研究課題として掲げた。

2. 研究によりどのような知見が得られたか（具体的に）

明治初期、アメリカにおける緑茶の需要を満たすために茶の生産が拡大された。ほとんどの煎茶は輸出向けであった。地方および都市部に住む日本人の多くは番茶を飲んでいた。煎茶は「日常的に飲む茶」ではなかった。大正後期に入って 、アメリカ人が緑茶の代わりに南アジア産の紅茶を飲み始めた。

博報招聘研究者として研究を行ったことにより、後の昭和初期に発生した変化についてより深く理解することができた。当時、日本の茶商人は供給過剰という難題に直面した。そこで、茶業組合中央会議が日本の都市部でいかにしてより多くの煎茶を売り込む努力をしたのかという点を探求した。その結果、裕福層は、より健康的だと思われていた番茶を好んで飲んでいたことを突き止めた。それにより、茶業組合中央会議所は、以下の二つ売り込み方法を実行する必要があることに気づいた。

1）煎茶のビタミンC含有量を強調する。2）煎茶を格好の贈答品として売り込む広告を展開する。また、茶業組合中央会議所は日本帝国においてより多くの煎茶を売り込むための販促活動を展開する。“煎茶がビタミンCを豊富に含む”ことを強調し、中国茶に取って代わる「健康的」な選択肢であることを啓蒙する。

こういった茶業組合中央会議所の取り組みにより、煎茶が日本で多く消費されることにつながった。そこで、自分の研究を通じて、1920年代と30年代、「健康的な飲料」として茶がいかにして普及したかと言う点を明らかにした。 ちなみに、煎茶のビタミンC含有量が高いことは現在でも言及されている。

3. 研究成果（予定を含む）

〇論文（題目，掲載誌，発行者，掲載月，内容の概略（200字以内））

・**出版予定**：1850年代から1950年代までの米国と日本における緑茶に関する本を完成

〇口頭発表（題目，イベントの名称，日・場所，内容の概略（200字以内））

・1） 研究セミナー： 4月17日に開催された「世界史という文脈から見た明治維新内戦の“戦後”におけるアメリカと日本を比較する」というタイトルの世界史の中の明治維新、日文研木曜日セミナー。この講義では、明治維新後、日本社会で存在していた緊張状態を緩和すべく、日本の茶業界が果たした役割について言及した。

2） 講演会：4月20日、「Selling Japanese Tea in the Nineteenth-Century United States: Marketing and Race from the Inside & Outside（19世紀のアメリカにおける日本茶の売り込み：国内と国外からのマーケティングおよび人種問

題）」上智大学アメリカ・カナダ研究所にて。この講演では、 19世紀後期と20世紀初期、アメリカで日本茶を売り込む際に使用された人種的な画像を紹介した。

3）研究セミナー：4月26日、京都大学経済学部にて「Tea as a Pacific and Global Commodity, 1750-1900」、経済史セミナーに参加。1750年から1900年まで、世界中で茶が主要物資であったことを紹介した。

4） 講演会：5月12日、袋井市南公民館にて開催された「明治、大正、昭和初期のアメリカにおける日本茶の消費」静岡県袋井市[茶学の会]に参加した。この講演では、19世紀後期から20世紀初期にかけてアメリカ人が日本の緑茶を消費していたことを紹介した。

5） 研究セミナー：5月18日、京都大学人文科学研究所附属現代中国研究センターにて「″Adulterated″ Chinese Tea on the Late 19th-Century US Market: Producer Connivance or Consumer Prejudice?」「転換期中国における社会経済制度」共同研究班］ に参加。このセミナーでは、19世紀のアメリカにおいて中国茶の消費量が減少したことをテーマにした発表を行った。

6） 6月9日、山口県光市市役所にて講演会、「『Japan Tea ブランド』の構築――太平洋を渡った緑茶」を行った。この講演では、19世紀にアメリカ人と日本人がいかにして「Japan Tea」ブランドを構築したかについて発表した。

〇その他の活動

・静岡県立大学グローバル地域センターの「静岡茶の世界を考える懇話会」に参加。

静岡で新茶の茶摘みを参加。また、茶業製茶工場を見学。

・鹿児島で生産されている知覧茶産業の発展に関する史料を調査した。また、知覧茶の試飲もした。

・広島県呉市にある海上自衛隊幹部候補生学校を訪問し、旧日本海軍兵学校において茶がどの程度「健康飲料」としてみなされていたかと言う点について調査をした。

4. 今後の活動予定

静岡の研究者らと共同で、1930 年代から 1970 年代までの北アフリカにおける日本の緑茶についての会議を開催する。

19 世紀と 20 世紀のアメリカにおける茶の消費に関する博物館展示を開催する。